

石川県立自然史資料館 中期経営目標

(実施期間 令和4年度～令和8年度)

令和4年3月 策定

1 施設の設置目的

自然史資料の収集、保管及び展示並びに自然史資料に関する調査研究及び普及に関することを行い、県民の自然に対する親しみと理解を促進するために、自然史資料館を設置しています。

2 施設の果たすべき役割

石川県全域の自然史資料（化石・岩石、動物標本、植物標本等）の収集・整理・保管及び調査研究を行い、そのことによって得られた「ふるさといしかわの自然」の特徴を、展示や教育普及活動により積極的に展開し、県民の自然史への関心を高めるとともに、環境教育・ふるさと教育の推進を図ることが、自然史資料館の役割です。

3 事業内容

(1) 展示・教育普及活動等による情報発信

資料館収蔵資料を活用し、展示（常設・企画・特別・館外）や教育普及活動（教育普及講座、学校・地域支援講座、講師派遣、講演会等）等を通して、県民をはじめとする広範な方々へ情報を提供します。また、自然に親しむための情報や調査研究に基づく情報などを発信します。

(2) 自然史資料の収集・保管及び調査研究

自然史分野を総合的に扱う県内唯一の資料館として、石川の自然とその変遷に関する自然史資料（化石・岩石、動物標本、植物標本等）を収集・整理・保管します。また、これらの資料を調査研究し、石川の自然史について明らかにしていくとともに、将来に継承します。

(3) 学習を支援し、自然に関心を持つ人材を育成

学校や社会教育施設、地域施設を対象に、地域の自然や資料館収蔵の資料を活用した学校・地域支援講座を実施することで体験学習を支援します。また、これらの体験学習や展示を通じて、自然に関心を持つ人材育成を推進します。

4 現状と課題

(1) 管理運営体制について

・自然史資料館では、民間のノウハウを活用し、施設を効果的・効率的に管理するた

め、指定管理者制度を平成20年度から導入しています。

- ・施設内外における展示及び教育普及活動の企画・運営、利用促進、施設・設備及び備品の維持管理及び修繕などの業務は指定管理者が行っており、当中期経営目標の実施期間（令和4年度から令和8年度）は、「特定非営利活動法人 石川県自然史センター」を指定管理者として指定しています。
- ・県では、自然史資料館の円滑な運営を図るため、管理業務に関する情報交換のための連絡会等を随時実施し、指定管理者とともに適正な管理・運営に努めています。

(2) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・平成29年度から令和元年度の平均入館者数は、6,107人で、指定管理者制度導入前の平成19年度の約2倍となっていました。令和2年度の入館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により2,920人と減少しました。今後は、感染予防対策を徹底しつつ、入館者の回復を図るとともに、さらに多くの方に利用していただくため、展示や教育普及講座を、より一層、学習効果と魅力を兼ね備えたものにしていく必要があります。
- ・周辺の学校や社会教育施設等への訪問による広報活動により、少しずつ団体見学や館外事業の申し込みが増加しています。今後とも、地域の皆さんの要望に添った講座や学校における学習活動と関連づけた講座を開催することで、利用促進を図っていく必要があります。
- ・広報活動としては、学校等の施設訪問による自然史資料館で行われる魅力ある事業の紹介をはじめとした施設のPRのほか、ポスター掲示やホームページによる情報発信、新聞・情報誌などへの情報提供などを行っていますが、今後は、SNS（Facebook、Twitter、YouTube等）を活用した効果的な情報発信を行っていく必要があります。
- ・利用者アンケートやご意見箱により利用者の意見を把握し、迅速に対応するとともに、職員間での情報共有を図っていますが、今後もさらに利用者に満足いただくため、ボランティアの活用等の取組を進める必要があります。
- ・利用者の利便性向上を図るため、団体利用や講座の申込等について、IT活用を進めていく必要があります。

(3) 施設運営の効率化について

- ・光熱費、消耗品費などの節約による、管理コストの低減化を進めています。
- ・企画展示では、他の機関と連携し展示資料やディスプレイ材料等を借りることで、コストの低減化を進めています。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標（指定管理者が実現すべき目標）

- ① 入館者数を5年間で、7,000人にします。
- ② 館外事業（体験講座、ミニ講演会、野外観察会等）の参加者数を5年間で3,200人にします。
- ③ 利用者アンケートによる満足度は、引き続き95%以上を維持します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標	基準値 (H29～R1平均)	中間目標値 (R6)	最終目標値 (R8)
① 入館者数	6,107人	6,500人	7,000人
② 館外事業参加者数	1,955人	2,600人	3,200人
③ 利用者アンケートによる満足度			
利用者サービス	98.0%	95.0%以上	95.0%以上
施設の維持管理	98.4%	95.0%以上	95.0%以上

6 指定管理者が設定した目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

① 施設の利用促進

- ・ 児童・生徒や学生ならびに勤労者の利活用を促進する観点から年末年始の一週間以外は、通年で土日祝日も、休みなく開館し、サービスの提供をおこないます。
- ・ 子どもたちの自然への興味を高めるため、夏休み期間中に子ども向けの特別展を開催するとともに、教育普及講座の内容を充実させます。
- ・ 学校との連携を密にし、学習内容とのつながりを持たせた、体験講座や講演会、野外観察会等を提供するとともに、大学や文化・研究施設との連携を図り、収蔵資料の貸借などを進めることで、より魅力的な展示や講座を実施します。
- ・ 自然史資料館周辺をエコミュージアムと位置付け、魅力に富む多彩な自然に恵まれたフィールドでの野外活動を充実させます。

② 広報活動の強化

- ・ 新石川県立図書館や県立森林公園や県立生涯学習センター等と連携し、館外展示を実施することで、自然史料館の認知度の向上を図ります。
- ・ ポスターやホームページ等による情報発信はもとより、SNS（Facebook、Twitter、YouTube）を活用した効果的な情報発信に努めていきます。

③利用者サービスの向上

- ・ 教師経験を持つボランティアに展示説明や野外観察の指導にあたっていただくことで、利用者の満足度向上を図ります。
- ・ 職員の接遇力を向上させるための研修を実施します。
- ・ 利用者の方々のご意見・ご要望を把握するため、展示業務・教育普及業務において、すべての利用団体にアンケート調査を実施（個人利用者にも積極的に実施）し、内容を分析し、事業の評価と課題を整理するとともに、分析結果等を踏まえ、利用者のニーズに対応した魅力ある事業の開発につなげていきます。
- ・ 自然史資料に関するレファレンス情報の提供機関として、個人、法人、団体、学校機関等、地域社会の要望に応えます。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・ ボランティア、自然史センターの加入団体を対象とする研修活動の強化により、そうした方々との協働を量的質的に向上させ、運営の効率化を図ります。
- ・ 光熱費、消耗品費などの節約による、管理コストの低減化に努めます。

参考資料(施設の利用状況など)

(1)利用指標(利用人数などの状況)

(単位:人)

項目	H29	H30	R1	R2
入館者数	6,281	5,560	6,481	2,920
館外事業参加者数	699	2,229	2,937	979

(2)利用者アンケート指標(利用者サービス、施設の維持管理)

利用者サービス

(単位:%)

項目	H29	H30	R1	R2
良い	66.2	59.6	86.7	76.5
概ね良い	29.6	38.6	13.3	20.6
計	95.8	98.2	100.0	97.1
やや悪い	2.8	1.8	0.0	0.0
悪い	1.4	0.0	0.0	2.9

施設の維持管理

(単位:%)

項目	H29	H30	R1	R2
良い	68.6	61.1	69.8	71.1
概ね良い	30.4	37.5	27.9	28.9
計	99.0	98.6	97.7	100.0
やや悪い	1.0	1.4	2.3	0.0
悪い	0.0	0.0	0.0	0.0

(3)使用許可等の状況

該当なし

(4)使用料の収入実績

該当なし